

こんな良いこと知っていましたか？

組織で働くということ

組織で働くということについて書きたいと思います。

多くの人は組織の中で働きます。

私は自営業の傍ら、フリーターとしていくつもの会社の一部として働いた経験を持っています。

“組織で働くこと”

に関して、“会社”を例に出して読者の方にとって良い情報のパーツとしてもらえそうなことをこのエッセイで述べたいと思います。

要点を3つにまとめました。

① 組織によってかなりの部分が異なる

社風、人間関係、そして会社ごとの細かなルール。

社員をひたすら扱き使うブラック企業もあれば社員に優しい優良企業もあるように、会社によって多くの部分は異なっています。

一旦その組織の中で働けば、特にその組織で働く期間が長ければ長いほど、その会社での決まり事、ルールが普通だという感覚が強くなるように思います。それが当たり前、自分の中の常識になってしまいがちです。

他の会社で働いた経験の少ない人は特にその色合いが濃くなるでしょう。

社員教育などという言葉も使われていますが、度合いこそ違えど従業員の考え方をその会社の色に染めてしまうような部分はあるでしょう。

しかし細かなところまでいえば、それぞれの会社によって本当に違います。

ある会社では絶対ありえなかったことが、別の会社では何の問題でもなかったりしますし、その逆も然りです。

どこの会社でも共通している部分は、もうわざわざ説明しなくても分かるレベルのこと（例えばタイムカードを着替えてから押すだとか、遅刻欠勤は事前報告が必要だとか）です。

このように会社によって違うのは、会社という組織が人間関係によって成り立っているからだと思います。

人間というのは考え方も感じ方も多種多様、十人十色ですよ。

社長も人間、それぞれの部署の上司もまた人間です。

その人が持っているものが、それ以下の雰囲気や細かな決まりごとになるように思います。

上司が厳格ならきっちりしている反面堅苦しきもある部署になるでしょうし、大らかで朗らかな上司であれば、堅苦しきはなくなったとしてももしかしたら部署の“和”や“雰囲気”に必要な以上にこだわる場になって、事務的に仕事をしたい人にとってはやりにくい面が出てくるかもしれません。

今の時代、一定の枠組みにとらわれた考え方を持たない方が良いでしょう。

もし今の職場がとても居心地が良いもので、その企業が100年企業だったりしてつぶれたり吸収合併されたりする心配もないのであればわざわざ知る必要もないかもしれませんが、そうでないのであれば、

“雰囲気や細かなルールのようなものは会社や部署によって全然違う”

という事実はちゃんと自分の中で認識をしておきましょう。

働いていてどうしてもその会社にいることが苦しいのであれば、潔く勇気を出して辞めるという選択肢も自分の中に持ってください。

移り変わりが激しい今の時代から考えると、例え社員であってもそういう潔い決断の選択肢は持っておいた方が良いでしょう。

世の中は広くて、本当に色々な考え方の組織があるということを知っておきましょう。

② 会社で働くということは“会社の流れに乗る”ということ

出勤時間になればタイムカードを押す、そのために朝早く起きて、だから夜は早く寝る。

石の上にも3年、頑張る。

頑張った分の給料は入ってくる。

社員であれば社会保険もつく。

このように、会社と社員はそれぞれ“雇用契約”というものを交わしていますから、互いに一定の信頼関係があります。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと幸いです。